

# 講演する研究者自身の可視化による防災啓蒙 —災害の知識の前に研究者の姿を届ける—

茂木耕作<sup>○</sup> (海洋研究開発機構)

## Enlightenment for Disaster Prevention by the Visualization of Talking-Researchers themselves —Deliver Researchers' living prior to deliver knowledge of disaster— MOTOKI QOOSAKU (Japan Agency Marine-Earth Science and Technology)

### ABSTRACT

This talk demonstrates activities regarding to enlightenment for disaster prevention and proposes to archive and distribute visualized talking-researchers themselves.

**Keywords:** Visualization of Researchers' living, Enlightenment for Disaster Prevention

### 1. 研究者じゃない人が最初に視るもの

防災や地球環境の様々な問題を考える際に可視化されるべき情報は、シミュレーション結果や観測値以外に何があるでしょうか？

それをどのように可視化したら防災啓蒙において価値を持ちうるでしょうか？

茂木は、2012年の6月に一般向けの書籍（図1）を執筆して以来、上記2つの問いに向き合いながら、マスメディア、パーソナルメディア、講演会、シンポジウム、書籍執筆などを通じて発信を続けてきました。

その中で今の世の中にあまりなくて、これからの世の中あって欲しいと思うもの、それが、

「講演する研究者自身の可視化による防災啓蒙」です。

その理由は、防災啓蒙を届けるべき研究者じゃない人達が最初に視るものが、実は、防災の知識ではなく、それをこれから語る研究者のキャラクターだからです。

「研究者のキャラクター」は、研究者自身はあまり意識していなくても、思った以上に受け取る側にとっては重要な要素です。受け取る側は、まず知識をどういうキャラクターの研究者から受け取りたいか、という選別を無意識にしています。また、同じ知識でもどういうキャラクターの研究者から受け取るかで、印象が大きく変わり、知識に基づいた行動も変わり得ます。

研究者自身の活動状況やキャラクターを可視化して届けられれば、防災啓蒙の入り口が大きく広がります。



図1 処女作：梅雨前線の正体・東京堂出版（上）と後に NHK ディレクターの目に止まった156ページ（下）。中身は、梅雨前線（を研究する茂木耕作）の正体がちゃんと書かれている。防災啓蒙の書ではないが、学生時代から研究者になるまでの姿が変わっていくストーリーを軸におき、その中に伝えたい知識を付随させて、知識が出しゃばり過ぎないように構成した。

## 2. 研究者の姿を届ける意味

防災啓蒙の諸活動を行っていく際に、茂木が実感してきたことは、「分かり易くする」ことよりも「知識がキャラクターより出しゃばらない」ことが重要だという事実です。多くの防災啓蒙では、知識から入り、知識を知識で説明して、その知識を思い出して下さいというメッセージの講演になりがちで、茂木自身もそういった講演をずっとしていました。しかし、それだと入り口から出口まで全て知識で埋め尽くされるため、どうしても受け取れる人がごくごく少なくなってしまいます。

そこで、あるときから茂木耕作という一研究者に、  
**「気象を楽しむ者、気象“楽”者モテサク」**

というできるだけダサくて尚且つ出しゃばったキャラクターで打ち出してみることにしました。こうするとキャラクターが出しゃばりまくっているために、知識がそれ以上に出しゃばってようには感じにくくなります。

こうしたキャラクターは、講演を含めた様々な研究活動を動画に撮影して、Youtube で公開した結果を解析するところから生まれました。自分が映っている Youtube 動画は、一つの可視化だとも言えますが、もう一つ大事な可視化は、**動画の再生回数**です。

動画の再生回数と動画そのものを見ることができると、それぞれに適した自然でかつ受け取られやすいキャラクターが、発信側と受信側の両方に同時に伝わっていきます。そして大事なことは、キャラクターが伝わると同時に、防災啓蒙上で伝えなかったメッセージやデータなども適宜伝わっていくということです。

研究者の姿は、決して表面的なキャラクターだけで伝わるものではありませんが、入り口としてキャラクターがあり、それを可視化して自分も相手もそれを視て、その上でドアの中でゆっくりと知識を視てもらおうという手順が必要です。

その手順において、地球環境データそのものの可視化と受け取り側の反応や感想自体の可視化と研究者のキャラクターをリンクさせるための可視化が、それぞれ効果的になされていけば、防災啓蒙の在り方も良い方に変わっていくはずで

今の中世にあまりなくて、これからの世の中あって欲しいと思う可視化について、あなたにとっては、どんなアイデアが思い浮かぶでしょうか？

**アイデアの広がり会場を可視化してみませんか？**



図2 Youtube の再生回数、再生時間の分析ページとキャラクターが抽出された動画のスクリーンショット。どのように振舞っている自分がどのような伝え方で誰に伝えている動画の再生回数が伸びるかをみると、自然と自分に合ったキャラクターが可視化される。